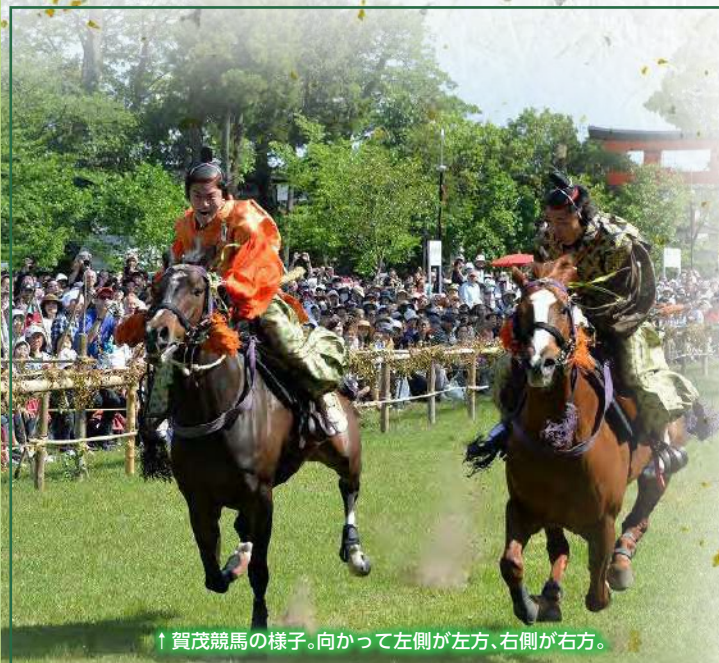




北区を拠点に、日本が誇る様々な伝統文化や芸術の伝承・創造に活躍される方々をご紹介しますシリーズ企画「文化のココロ」。今回は、今年記念すべき930年の節目を迎える賀茂競馬や、4年ぶりとなる「路頭の儀」の実施が決定した「葵祭」の開催などにご尽力されておられます、一般財団法人 賀茂県主同族会理事長の堀川潤さんにお話を伺いました。



一般財団法人 賀茂県主同族会理事長
堀川 潤さん
昭和28年、賀茂一族の末裔、上賀茂神社旧社家に生まれる。賀茂競馬保存会副会長。大学や講演会を通じ、京の伝統、文化を伝える活動を続けられている。平成22年度京都市伝統行催事功労者表彰受賞。



↑ 賀茂競馬の様子。向かって左側が左方、右側が右方。

【賀茂競馬の開催日時】

- 日 時

5月1日(月)13時～ 足汰式(見学有料)
5月5日(金・祝)14時～ 競馳(見学有料)
- 場 所

上賀茂神社(北区上賀茂本山339)

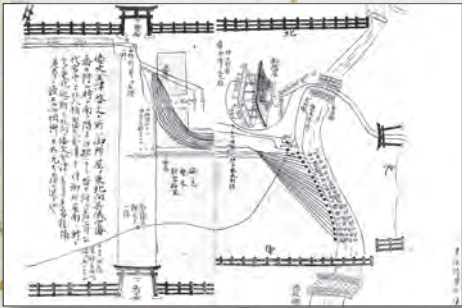
賀茂競馬について

賀茂競馬は、平安時代の寛治7(1093)年、堀河天皇が、天下泰平と五穀豊穰を祈って宮中で行われていた競馬会を上賀茂神社に移したことに始まり、毎年5月5日に、神社の芝生で行われています。乗尻(騎手)は舞楽装束をつけ、左方と右方が一対となって馬を走らせ、速さを競います。

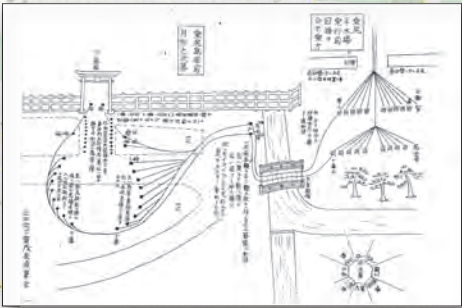
賀茂競馬は、今年930年の節目を迎えますが、長い歴史の中で、様々に変化してきました。昔の馬の体重は200kgありませんでしたが、現在は競馬を引退した体重450kgものサラブレッドが走っており、とても迫力があります。

装束や馬装に多少の変化はありますが、鞍や鐙の一部は江戸時代のものを今も大切に使っています。それだけでなく、儀式や所作、馬の配置などの基本的なことも、鎌倉時代の頃から形を変えずに、継承し続けています。

今後もこの伝統的な行事を次世代に継承していくため、知恵を絞っていきたいと思います。



↑ 江戸時代の作成とされる賀茂競馬の手順書。現在も当時の手順に沿って行われています。



賀茂競馬930年記念事業について

「上賀茂神社の馬」絵画コンクール

- 応募資格

小学校6年生以下のお子さま
- 内 容

「かみがもじんじゃと うま」をテーマに、
八つ切りサイズ(39cm×27cm)の
画用紙に描いてください。
- 応募期間

令和5年7月末まで
- 問合せ
応募先

上賀茂神社社務所 担当:晴山
(北区上賀茂本山339 ☎781-0011)

賀茂競馬写真展

- 日 時

4月15日(土)～27日(木)(10時～17時)
*21日(金)は休館
- 場 所
問合せ

ギャラリー be 京都
(上京区新町通上立売上る安楽小路町429-1)
☎417-1315

詳細及びその他の記念事業はこちらから→ 

葵祭について

上賀茂神社と下鴨神社の例祭として、平安時代から行われています。その起源は欽明天皇28(567)年と言われ、占いで凶作の原因とされた賀茂の神々を鎮める祭礼として始まりました。古くは「賀茂祭」と言われ、「源氏物語」をはじめ多くの古典文学にも登場します。弘仁10(819)年には勅祭となり、重要な国家的行事に位置付けられました。葵の葉を飾ようになったのは江戸時代からで、以降「葵祭」と呼ばれるようになりました。

衣裳から小物、牛車に至るまで平安時代の風俗を再現した総勢500名余の行列「路頭の儀」はまさに王朝絵巻。行列は御所を出発し、下鴨神社へ。下鴨神社で「社頭の儀」などの諸行事が行われたのち、行列は上賀茂神社へ向かいます。

今年は4年ぶりに「路頭の儀」を実施することとなりました。「路頭の儀」は、行列に参加する方だけでなく、装束の着付けや女人列の化粧、調度品や馬の調達等に多くの方が関わるなど、人と人との結びつきで成り立っています。コロナ禍で3年のブランクがあり、行事の継承が難しくなつつあった中、今年は例年通りに実施できることになり安堵しています。

新緑が輝く中、しばし王朝の雅に浸っていただければと思います。

【「路頭の儀」開催日程と行列先頭通過時間】

5月15日(月)10時30分頃 京都御所→11時40分頃 下鴨神社→15時30分頃 上賀茂神社
*雨天の場合は、翌日に延期

問合せ 地域力推進室 企画担当 ☎432-1199